

平成 30年 4月 10日

若手研究者海外挑戦プログラム報告書

独立行政法人 日本学術振興会 理事長 殿

受付番号 201780224

氏 名 吾田 ますみ

(氏名は必ず自署すること)

若手研究者海外挑戦プログラムによる派遣を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。
なお、下記記載の内容については相違ありません。

記

1. 派遣先：都市名 ケンブリッジ (国名 英国)
2. 研究課題名 (和文) : 帝国の海運と戦間期の日英関係
3. 派遣期間：平成 29年 10月 10日 ~ 平成 30年 3月 10日 (152日間)
4. 受入機関名・部局名：ケンブリッジ大学 アジア・中東研究科
5. 派遣先で従事した研究内容と研究状況 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

受入研究者の厚意により、重要かつ膨大な量の史料へアクセスすることができるロンドンに居住し、The National Archives, The British Library, The Royal Institute of International Affairs, SOAS Archives and Special Collections ほか諸アーカイブにおいて 1920 年代、1930 年代の公文書、私文書の調査を行った。加えて、英国内の Churchill Archives Centre (Cambridge University), The Modern Records Centre (Warwick University), Newcastle University, Durham University および オランダ・ハーグの het Nationaal Archief (国立公文書館) を訪問し同様の調査を行った。

派遣期間中にはケンブリッジ大学において受入研究者と面談を行い、自身の博士論文構想と今後の見通しについて報告した。ロンドンではロンドン大学経済政治学院 (LSE) において東アジア国際関係史を題材とする大学院授業の聴講許可をいただき、滞在期間を通して継続的に出席した。

6. 研究成果発表等の見通し及び今後の研究計画の方向性 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

今回の調査成果は、2018年度提出予定の博士論文において存分に発揮されることを確信している。博士論文では、滞在前、滞在中に史料および二次文献から獲得した知見から、第一次世界大戦前のパクスブリタニカ的な海運秩序が第一次大戦後に海運新興国日米から受けた挑戦と葛藤、そして海運を舞台とした国際秩序と帝国秩序の相克の展開と帰結を、ひとつの戦間期秩序研究として論じる。併行して論文化し、学術雑誌へ投稿するとともに、博士論文を元にした学術書の出版を目指す。

博士論文以後は、滞在中の史資料閲読や研究交流のなかで芽生えた「自由貿易」論への関心を出発点として、近現代日本の海運を含む通商における「自由主義」に焦点をあてた研究を行いたい。

7. 本プログラムに採用されたことで得られたこと (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

先述のように、滞在中の成果は大きく二つに分けられる。ひとつはイギリス国内外における史料調査という物質的成果であり、もうひとつはこれまでの自身の研究を相対化し、今後の研究をより深化、飛躍させ得る視覚の獲得という成果である。

前者については、自身の研究関心に限ったとしても、イギリス国内に所蔵される膨大な関連公文書・私文書の氷山の一角にもならない極一部を覗いたに過ぎないが、それでもなお地方のアーカイブ調査はもちろん、複数の文書群を体系的に調査し、その成果から次の調査対象を発見するというルーティーンはこれまでの短期滞在では組み立てることができておらず、今回の長期滞在が可能としたものであった。

後者は、ロンドンおよびケンブリッジを拠点とする国際政治史、東アジア史研究者たちとの対話や、グローバルヒストリー研究における第一線の研究者たちの講演聴講に加え、日本国内では得難い膨大な文献への容易かつ反復的なアクセスに基づく研究状況の体系的な理解から得られた成果である。日本政治外交史を含む東アジア国際関係史の視覚や、世界大の歴史叙述から、博士論文の基底となる慎重かつダイナミックな歴史像を組み立てる発想、方法を学んだ。